

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果) 案

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	自立と社会参加をめざし、キャリア教育の観点から教育内容を見直すとともにわかっている授業を行うための授業改善を行う。	① カリキュラムマネジメント実施計画に沿って、自立と社会参加の観点から学びの連続性、学部間の系統性の構築に向けた教育課程の見直し、学習内容の検討を行う。  ② ICT機器等を有効に活用し、視覚支援を活かしたよりわかりやすく、主体的に学ぶ授業づくりを進める。	① ・教育企画班及びリーダー会を中心に、学習内容の学びの連続性を踏まえて書式を統一した年間指導計画に基づき、系統的な指導を実践する。 ・カリキュラムマネジメント実施計画に沿って、学習内容の系統化を整理し、教科の指導内容表の作成を進める。  ② ・ICT機器利活用の実践例の共有やミニ研修会などを行い、誰もが取り組みやすい効果的な活用方法について共有する。 ・児童生徒のコミュニケーション支援や主体的な学びの手立てとして、より効果的にICT機器を活用する。	① ・学習内容の学びの連続性を踏まえ、年間指導計画に基づき、系統的な指導を実践することができたか。 ・カリキュラムマネジメント実施計画に沿って、学習内容の系統化を整理し、教科の指導内容表の作成を進めたか。  ② ・ICT機器利活用の取組が活性化し、授業を工夫し、改善できたか。 ・ICTの利活用を推進し、児童生徒の主体的な学びを促進し、理解を深めることができたか。					
2 (児童・生徒) 生徒指導・支援	児童生徒一人ひとりのおかれている環境や障害の状況、発達段階を含む困難さに応じ児童生徒が主体的に学び、課題を解決する力を身に付ける指導・支援を行う。	① 全校共通のアセスメントの結果から児童生徒の状態を的確に把握し、個別教育計画の作成と教育活動の実践に活かす。  ② 様々な集団における対話的な活動を通してコミュニケーション力を高め、互いの良さを認め合い、支え合える人権教育を推進する。	① ・発達段階に応じた全校共通アセスメントを効果的に活用し、個別教育計画作成のマニュアルをもとに研修を行い、適切な目標設定と手立てを講じて、指導・支援を実践する。 ・個別教育計画を活用したケーススタディを計画的に実施し、指導方法の改善、共有化を図る。  ② ・縦割りの授業や学部学年を超えた集団活動を通して、協調性や思いやりの心を育み、自己肯定感を養う。	① ・全校共通アセスメントの活用方法や個別教育計画作成のマニュアルをもとに、全職員が理解し、個別教育計画を作成することができたか。 ・児童生徒の状態像を的確に捉え、ケーススタディを行い、個に応じた授業実践、指導ができたか。  ② ・集団活動を通して児童生徒の互いの良さを認め合い、支え合う活動を促す授業実践や指導ができたか。					

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	将来を思い描き、自ら選ぶ取ることのできる進路指導・支援を行う。	① 各学部においてキャリア教育の観点による指導・支援を充実させ、小学部から高等部まで連続性のある系統的な指導・支援ができるようにする。 ② 各学部と進路支援班が協働し、児童生徒の適性を活かし、ニーズに応じた進路選択につなげる内容を授業に取り入れるとともに、積極的に情報を発信していく。	① 「キャリア教育推進のポイント」を基本に、将来身につけたい力を明確にし、系統的な指導計画を立て、指導、支援を行う。 ・作業学習等、ねらいを明確にし、児童生徒の自立と社会参加に結びつく指導・支援を実践する。 ② ・進路支援班と連携し、各学部それぞれの発達段階における進路指導について検討し実施する。 ・校内の支援体制を構築し、面談や相談を通して、児童生徒の適性やニーズを把握する。 ・進路だよりや見学会等を通じて、保護者へ情報提供を行い、より良い進路選択・支援につなげる。	① 「キャリア教育推進のポイント」に基づき、将来身に付けたい力を明確にし、自立と社会参加につながる授業実践を行ったか。 ② ・進路支援班と協働し、児童生徒の適性やニーズに応じた指導・支援ができたか。 ・保護者への情報提供を通して、連携して進路指導・支援に取り組めたか。					
4	地域等との協働	共生社会の実現に向け、地域の様々な人や機関との相互交流の活動を展開する。	① 学校運営協議会を通して、地域や関係機関と連携し、教育活動の充実を図る。 ② 学校コンサルテーションの視点に立ち、地域の学校の支援教育体制構築に向けて支援を行う。	① ・地域や近隣の学校等、交流や共同学習を進め、その取組を地域や保護者に発信する。 ・地域資源を活用した授業を推進する。 ・学校間の連絡会を通して情報を共有し、職員間の交流や合同研修会等の実施を継続・発展させる。 ② ・定期巡回相談を通して、地域の学校における支援力向上のため、必要な情報発信・支援を行う。 ・市町教育委員会と連携した取組として実施する。	① ・地域や学校間交流を推進し児童生徒間の相互理解が進んだか。また取組を地域や保護者に発信できたか。 ・地域資源の活用が推進できたか。 ・学校間交流や地域との交流を実施し職員間の交流が図られたか。 ② ・定期巡回相談により、地域学校における支援力向上に向けた働きかけができたか。 ・市町教育委員会と定期巡回相談の目的について共有できたか。					
5	学校管理 学校運営	すべての職員が教育課題を的確に把握し、当事者意識を持ち学校課題を組織的に対応・改善できる人材育成と効率の良い機能的な組織体制を作る。 安心・安全な学校づくりを行う。	① 安心・安全な学校環境を整えるため、防災・防犯訓練等災害対応力を向上させる取組を実施する。 ② 事故・不祥事防止に向けて、全職員が主体的に課題意識を持つとともに、より心理的安全性を向上させる学校づくりに取り組む。	① ・避難訓練等防災教育を通して児童生徒が自ら身を守る行動がとれるよう指導支援を行う。 ・地域や関係機関と連携して安全教育に取り組む。 ② ・事故・不祥事を自分事と考える意識向上のため、校内のミニ研修会の講師を総括教諭に限らず、テーマごとに幅広く担当してもらい実施する。 ・日ごろの教員同士のコミュニケーションを大切に、同僚性を高めることで業務の効率化を図るとともに、相互の心身の変化に早く気づけるようにする。	① ・防災教育を通して児童生徒が自ら身を守る行動がとれるようになったか。 ・地域や関係機関と連携して安全教育に取り組むことができたか。 ② ・事故・不祥事防止に向けて、自分事ととらえて行動することができたか。 ・教員同士、コミュニケーションを図り、同僚性を高めることができたか。					